



仮想マシンをモダ ナイズすべき 15 の 理由

Google Cloud 上の Red Hat OpenShift



目次



進化を続ける仮想インフラストラクチャ

3 ページ



組織全体でメリットを享受する

6 ページ



仮想マシンの移行を始める

15 ページ

進化を続ける仮想 インフラストラクチャ

数十年にわたり、企業は仮想化テクノロジーを利用して、運用を効率化し、コストを最適化し、革新的なアプリケーションを提供してきました。

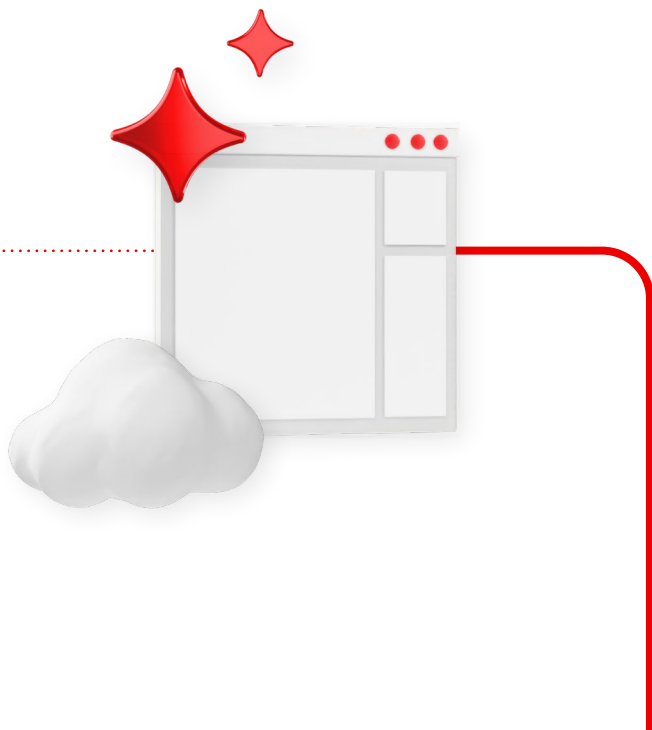
仮想マシン (VM) は、IT チームがリソースを効率的に使用し、柔軟性を向上させるのに役立ちました。そしてパブリッククラウドの台頭により、これらのプラットフォームは新しいクラウドコンピューティング・モデルのスケラビリティとアジリティを使用するように進化しました。

そして現在、将来の運用に必要な一貫性と効率性を確保するために、多くの組織が戦略の見直しを行っています。投資対効果 (ROI) を最大化するため、仮想化は今後も使われ続けていくでしょう。しかしその一方で、既存の VM を扱いつつ IT のモダナイゼーションに備えることができる統合プラットフォームへの移行のニーズが高まっています。これを成功させるには、現在の仮想化ニーズを満たすとともに先進的なシステムとの統合が可能な、クラウド対応の基盤が必要です。

将来に向けた統合基盤

Google Cloud 上の Red Hat® OpenShift® は、従来の運用を中断することなく、VM をコンテナ、サーバーレス、AI ワークロードとともに実行および管理するための先進的なエンタープライズ対応プラットフォームを提供します。Kubernetes および DevSecOps 機能を利用したこのセキュリティ重視の基盤により、ハイブリッド、マルチクラウド、エッジを含む環境全体でアプリケーションを大規模に構築、デプロイ、管理できます。

Red Hat と Google Cloud は連携して、コストを抑えながらアプリケーション開発を加速し、運用を効率化するのに役立つ一貫した環境を提供します。この統合されたハイブリッドクラウド環境は、クラウドネイティブ開発、データ管理、DevOps、AI/機械学習 (ML) テクノロジーをサポートし、効果的な運用に必要なツールを提供します。



柔軟なデプロイと移行

Google Cloud 上の Red Hat OpenShift は、組織固有の要件を満たす柔軟なデプロイオプションを提供します。

- セルフマネージド型 **Red Hat OpenShift**: 既存のワークロード (AI、従来型、仮想化アプリケーションを含む) を単一のプラットフォームに移行できる包括的なハイブリッドクラウド基盤を提供します。
- **Red Hat OpenShift Dedicated**: Google Cloud 上で利用できるフルマネージド型のアプリケーション・プラットフォームです。クラスタのデプロイと管理を自動化して運用の複雑さを軽減できるので、ビジネス価値を高めるアプリケーションの構築に集中できます。

どちらのソリューションにも **Red Hat OpenShift Virtualization** が含まれます。これはカーネルベースの仮想マシン (KVM) とオープンソースの KubeVirt プロジェクトをベースとする機能であり、Red Hat OpenShift コンソール内で直接 VM を運用できるようにします。これにより、コンテナ化されたワークロードで VM を実行しながら、同時に VM の作成、管理、ライブマイグレーションを行うことができます。仮想化移行ツールキット (MTV) などのサポート付きツールを使用すれば、自社のベースで Linux® と Windows VM をこの統合プラットフォームに移行できます。Red Hat OpenShift Dedicated に VM をデプロイする場合、標準的な方法では Red Hat の SRE (サイト信頼性エンジニアリング) チームが基盤となるプラットフォームを管理し、お客様の社内チームが OpenShift Virtualization とその上で実行される VM を管理します。

コンテナと並行してワークロードを実行するようになれば、組織はクラウドネイティブ・アーキテクチャと先進的な開発手法を導入しながら、既存の投資の価値を最大化できます。



エキスパートによるプラットフォームとクラウドの管理

Google Cloud 上の OpenShift Dedicated では、以下を含むソフトウェアスタック全体を Red Hat のエキスパートが管理します。



クラスタの作成



クラスタの管理



監視とロギング



ネットワーク構成



ソフトウェアとセキュリティのアップデート

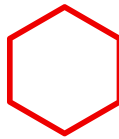


24 時間 365 日体制のプラットフォーム・サポート

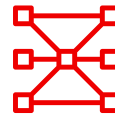




仮想マシン



コンテナ



AI モデル

Red Hat OpenShift Virtualization



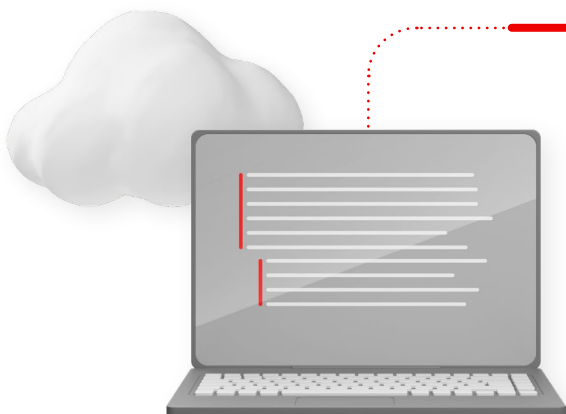
Red Hat
OpenShift



Red Hat
Enterprise Linux

物理マシン

VM を Google Cloud 上の Red Hat OpenShift に移行すれば、アプリケーション・モダライゼーション・プロセスのあらゆる時点で価値が得られます。



組織全体でメリットを 享受する

従来の VM を Google Cloud 上の Red Hat OpenShift ベースの
統合基盤に移行すべき 15 の理由

1

先進的な仮想化プラットフォームで安定性とサポートを維持する

従来型から先進的な仮想化プラットフォームへのワークロードの移行はときに複雑です。スムーズで効率的な移行プロセスを実現するには、VM の互換性、構成が変わる可能性、潜在的なパフォーマンスの最適化を慎重に検討する必要があります。さらに、移行計画では、仮想化プラットフォームのデプロイと管理に使用するプロセスやツールの違いも考慮しなければなりません。これは特にクラウドプロバイダー間で移行する場合に重要となります。VM の互換性を事前に検証し、ウォームマイグレーション機能を使用し、複数の VM を一度に移行することで、仮想化プラットフォーム間でワークロードを迅速に、少ない労力で移行することができます。オプションでコールドマイグレーションも利用できます。

[仮想化移行ツールキット](#)は、既存の VM を OpenShift Virtualization に移行する際のプロセスを効率化および高速化し、時間を節約して潜在的なエラーを最小限に抑えます。さらに、このツールキットを Ansible® Automation Platform と組み合わせることで、効率的かつ大規模に複数の VM と関連インフラストラクチャの[移行を自動化](#)できます。

2

ハイブリッド環境やマルチクラウド環境でコスト効率の高い一貫した運用を実現する

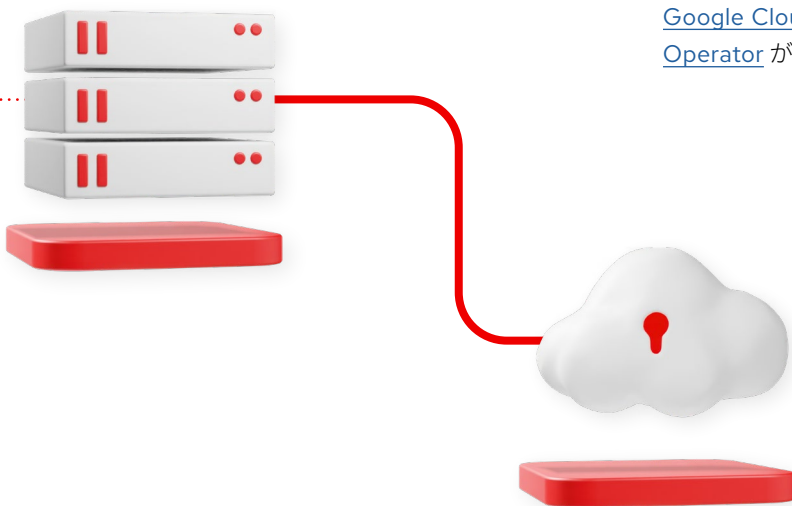
ハイブリッド環境やマルチクラウド環境を導入する主な利点の1つが、柔軟性です。アプリケーションをデプロイする際にこれらの環境を使用すると、ビジネスの目的に合ったスケーラビリティ、パフォーマンス、コストのバランスがとれるようにさまざまなデータセンターとクラウドのリソースから選択できるようになります。アプリケーション・プラットフォームで、ハイブリッドおよびマルチクラウド環境の VM ワークロードを一貫して実行および移行することで、アプリケーションのデプロイを効率化し、リソースの使用を最適化し、運用の一貫性を保つことができます。

OpenShift Virtualization は、データセンター、エッジ環境、パブリッククラウド環境でのセルフマネージド型物理サーバーをサポートしているため、最適なインフラストラクチャで VM をデプロイし、管理できます。Google Cloud 上の Red Hat OpenShift はデータセンターやパブリック、プライベート、ハイブリッド、またはマルチクラウド環境で一貫して動作するため、アプリケーションや VM ごとに適切な場所を選択し、ニーズの変化に応じて移動させることができます。この一貫性により、オンサイトのワークロードおよび VM を Google Cloud へ移行する作業も効率化されます。

VM とコンテナを別々のプラットフォームで管理すると、複雑さ、リソースの断片化、運用のオーバーヘッドが増える可能性があります。VM とコンテナの両方にまたがるインフラストラクチャのデプロイ、管理、監視を効率化する統合プラットフォームは、リソースの使用を最適化し、重複する作業を排除し、多様なワークロードに迅速に適応するのに役立ちます。[Red Hat Advanced Cluster Management for Kubernetes](#) は単一のコンソールを使用してクラスター全体の VM とコンテナを管理できるようにし、Red Hat OpenShift Virtualization の拡張を支援します。さらに、ガバナンス、ポリシー適用、自動化の機能も組み込まれています。

OpenShift Virtualization は、VM、コンテナ、ベアメタル、サーバーレスワークロード用の単一プラットフォームで運用を効率化します。インフラストラクチャのデプロイを標準化し、共通で一貫性のある確立されたエンタープライズツール一式を使用して、すべてのワークロードを保守することができます。また、Ansible Automation Platform によって、プロビジョニングからコンプライアンス、デプロビジョニングに至るまでの Day 2 オペレーションを最適化することもできます。

それに加えて、認定パートナーとの統合により、既存のサービスとアプリケーションを Google Cloud 上の Red Hat OpenShift で引き続き使用できます。ベンダーの詳細な専門知識を網羅した[認定 Operator](#) と Helm チャートにより、必要なアプリケーションを自信を持ってデプロイおよび管理できます。たとえば、[Google Cloud のサービスやリソースを管理するためのさまざまな Operator](#) が Google Cloud から提供されています。



3

柔軟な価格と最適化された調達

柔軟な購入オプションにより、柔軟性とコストの適切なバランスを実現できます。Google Cloud 上の Red Hat OpenShift を Google Cloud Marketplace から直接購入すると、デプロイ関連のすべての費用が1つの Google Cloud 請求書でまとめて請求されるため、調達業務が効率化されます。この統合請求アプローチにより、サブスクリプションをより効率的に管理し、管理オーバーヘッドを削減できます。

従量制の価格設定となっているので、料金は使用したインスタンスに対してのみ発生し、柔軟な運用が可能です。また、予測可能なワークロードがある場合は、複数年のリザーブドインスタンス・モデルで大幅な割引を得ることができます。さらに、これらのデプロイメントに既存の Google Cloud 確約利用料を適用して、投資の価値を最大化することもできます。また、Red Hat やリセラーパートナーが提供するプライベートオファーを活用すれば、Google Cloud の確約利用の対象となりながら、より低価格で利用できます。

4

スケジュールに合わせて長期的にアプリケーションをモダナイズする

アプリケーションの変革

Red Hat OpenShift は、オンサイト・データセンター、クラウド環境、マネージド・クラウドサービスで一貫して動作するため、自社のアプリケーションと VM に最適な環境を選択できます。

[e ブックを読む](#)

VM 上のモノリシックなアプリケーションや n 階層アプリケーションをコンテナ化されたマイクロサービスベースのワークロードに移行することで、スケーラビリティの強化や生産性およびアジリティの向上という大きなメリットを得ることができますが、一方で時間とリソースに多大な投資を必要とすることもあります。そのため、VM、コンテナ、ベアメタル、さらにはサーバーレスワークロードを含む混合環境をサポートするプラットフォームが不可欠です。そのようなプラットフォームがあれば、自社のペースで独自のビジネスニーズに応じてアプリケーションの変革を戦略的に進めていくことができます。

Google Cloud 上の Red Hat OpenShift を使用すると、業務を中断することなくモダナイズできる単一の統合プラットフォームが実現します。VM とコンテナベースのワークロードを並行して実行し、オンプレミス、クラウド、エッジ環境全体で運用の一貫性を効果的に維持できます。このアプローチによりプラットフォーム管理の負担が軽減され、戦略的なイノベーションに集中することが可能になります。また、開発者は先進テクノロジー（生成 AI など）のスキルを向上させ、Google Cloud と Red Hat のエコシステムの強みを組み合わせてアプリケーション開発を加速することもできます。

5



VM をデプロイするためのセルフサービス・オプションを提供する

VM を手動でデプロイするのは非効率的でミスが発生しやすいプロセスです。構成に一貫性がない、デプロイに時間がかかる、セキュリティ脆弱性のリスクが高まるといった結果に終わることがあります。セルフサービス機能があれば、ユーザーは IT サービスチケットを発行しなくても、事前承認されたセキュリティ準拠の VM 構成を、必要なときに迅速かつ安全にデプロイできます。

Google Cloud 上の Red Hat OpenShift を使用すると、IT 運用チームの手を煩わすことなく、必要なリソースを自分でプロビジョニングできます。ユーザーはプロジェクトに VM を作成し、必要なリソースをチーム全体が入手できるように、標準の Red Hat OpenShift ロールベースのアクセス制御 (RBAC) に従って他のプロジェクトメンバーにアクセス権を付与することができます。[VM インスタンスタイプ](#)では、定義済みのオペレーティングシステム (OS) イメージ、ワークロードタイプ、およびハードウェア要件により、セルフサービス・プロビジョニングを効率化できます。また、[テンプレート](#)を使用して、仮想アプライアンスなどの高度な設定を必要とする VM をデプロイすることもできます。



6

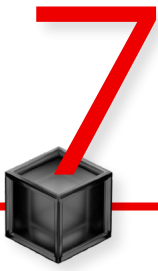


GitOps を導入し、VM をパイプラインに統合する

開発およびデプロイのパイプラインに VM を使用すると、アプリケーション提供プロセスのスケーラビリティ、一貫性、およびスピードを向上させることができます。Google Cloud 上の Red Hat OpenShift では、GitOps アプローチを導入してアプリケーション・ワークロードだけでなく VM ワークロードも管理できるため、先進的なアプリケーション提供に関するベストプラクティスを VM ライフサイクル管理にも適用できます。

● **統合ライフサイクル管理:** Red Hat OpenShift 上の VM は Kubernetes リソース (カスタムリソース定義) として扱われるため、VM のライフサイクル全体を ArgoCD で管理できます。これにより、VM 運用を個別の手動プロセスではなく、自動化され、監査可能で一貫性のあるクラウドネイティブのワークフローとして扱うことができるようになります。

- **標準化された環境:** VM を[継続的インテグレーション/継続的デプロイメント \(CI/CD\)](#) パイプラインに統合すれば、標準化された再現可能な独立環境を、コーディング、テスト、デバッグ用にデプロイすることができます。
- **統合されたツール:** Red Hat OpenShift Pipelines と Red Hat OpenShift GitOps (ArgoCD ベース) を使用すると、パイプライン内で直接 VM の作成、管理、コマンド実行を行うことができます。これにより、既存の仮想化ワークロードを破棄することなく運用をモダナイズできます。



プロダクション環境に対応した仮想化ハイパーバイザー・テクノロジーを実現する

ハイパーバイザーのパフォーマンス、安定性、およびセキュリティポスチャは、効率的で信頼性の高い仮想インフラストラクチャに欠かせません。信頼できるベンダーがサポートし、幅広くテストされ認められたハイパーバイザーを採用することは、仮想化ワークロードをより適切かつ大規模に管理し、多様な環境にわたる信頼性を向上させるための助けとなります。

OpenShift Virtualization と Red Hat Enterprise Linux の基盤となるハイパーバイザーである [KVM](#) は、セキュリティ重視の高性能なオープンソースのハイパーバイザーです。KVM は 2007 年に初めてリリースされ、世界中の組織に効率的で安定した仮想化基盤を提供しています。現在では、Linux の仮想化は多くのグローバルな金融サービス企業、航空会社、製造業、公共機関、および通信会社の重要な IT インフラストラクチャを強化し、パブリッククラウドのデプロイに広く採用されています。



VM のパフォーマンスを高める

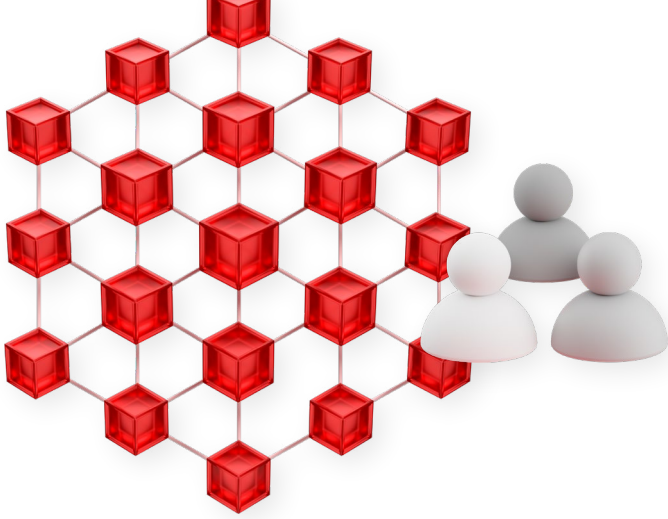
ダウンタイムにつながるような中断が IT サービスで発生した場合は、迅速なリカバリーが不可欠です。中断が発生すると、それらのサービスを使用する VM で実行されているアプリケーションも使用できなくなります。VM を迅速かつ効率的にリカバリーおよびリブートできるアプリケーション・プラットフォームは、ビジネスを常に稼働させておくために欠かせません。

OpenShift Virtualization では、大量の VM について起動時間の増え方がほぼ直線的であるため、重要なアプリケーションを常に利用可能にできます。



複数のゲスト OS に対応する

仮想化環境では、ゲスト OS のサポートによって、共有物理インフラストラクチャ上で実行できるワークロード、アプリケーション、サービスの多様性が高まります。幅広い OS との互換性、ゲストとホストを分離する高度なセキュリティ機能、豊富な経験を持つエキスパートによるサポートにより、さまざまな IT 環境における仮想化が単純化されます。



Red Hat は、マイクロソフトの Server Virtualization Validation Program (SVVP) による Microsoft Windows ゲストサポートの認証など、OpenShift Virtualization で使用する[ゲスト OS](#) をテスト、認証、およびサポートし、ビジネスニーズを満たす IT 環境の構築を支援します。また、PowerShell、Ansible Automation Platform などの一般的なゲスト内ツールを、OpenShift Virtualization 上で稼働する VM で引き続き使用することも可能です。

10

高度なセキュリティ機能とベストプラクティスでリスクを低減する

ハードウェア・インフラストラクチャを共有する仮想化環境におけるセキュリティの脆弱性は、不正アクセス、データ漏洩、潜在的なサービス障害のリスクを増大させます。強力な分離技術、一貫したセキュリティポリシー、最小特権原則の遵守により、VM ワークロードの全体的なセキュリティポスチャを強化できます。

OpenShift Virtualization は、制限された Kubernetes Pod セキュリティ標準プロファイルに従い、root 権限なしで VM のワークロードを実行することで、現在の業界標準のセキュリティプラクティスに準拠し、組織を保護します。Red Hat OpenShift には、組織のプラットフォームを最初から保護するコアセキュリティ機能（アクセス制御、ネットワークセキュリティ、スキャナーが組み込まれたエンタープライズ・レジストリなど）も含まれています。Google Cloud 上の Red Hat OpenShift は、Payment Card Industry Data Security Standard (PCI DSS)、System and Organization Controls (SOC) 2、国際標準化機構 (ISO) 27001 といった[主要なセキュリティ標準](#)の認定を受けており、それらの標準に準拠して管理されています。

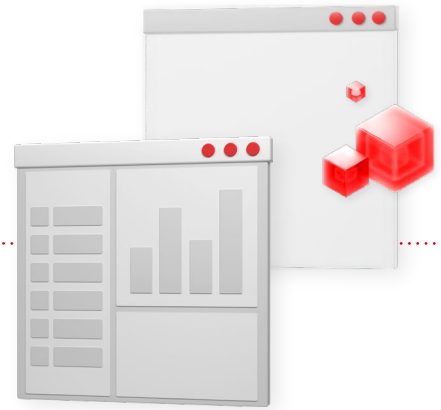
さらに、Google Cloud 上の OpenShift Dedicated は、素の状態でも ISO 27001、Payment Card Industry Data Security Standard (PCI DSS)、SOC 2 Type 2 の認定済みです。

Google Cloud は、運命共有モデルに基づくセキュアバイデザイン基盤を提供して包括的なリスク緩和を実現することで、信頼できるクラウドとしての地位を確立しており、厳格なデジタル主権要件と組織のコンプライアンス目標への対応をサポートします。

このセキュリティ・エコシステムは、Gemini in Security（または Duet AI）などのツールや最新の Google Security Operations (SecOps) プラットフォームを使用して生成 AI によって強化され、インテリジェントで迅速な脅威の検出、調査、対応を実現します。このプラットフォームは、フロントラインのインテリジェンスと、Mandiant のインシデント対応担当者や脅威アナリストの深い専門知識を統合しています。これによって脅威アクターに対する重要な視点が得られるのに加え、アクティブな脅威を理解し、侵害の影響を最小限に抑えることができます。

Google Cloud を Security Command Center (リスク軽減) や Assured Workloads (コンプライアンス) など、制御の広範なポートフォリオと組み合わせれば、自信を持ってクラウド変革全体でセキュリティを重視するのに役立ちます。Google Cloud のセキュリティの[詳細をご覧ください](#)。

11



VM のライブマイグレーションを効率化する

ワークロードを中断することなく、稼働中の VM を別のホストに移動するライブマイグレーションは、インフラストラクチャの要求が変化する中で、継続的な運用を維持するために極めて重要です。環境全体でライブマイグレーションを構成、開始、監視できる仮想化プラットフォームは、ワークロードのバランスをとり、メンテナンス作業時のダウンタイムを回避するのに役立ちます。

OpenShift Virtualization は、統合された管理コンソール、設定可能なポリシー、VM メトリクス、トラフィックの暗号化により、[ライブマイグレーション](#)のワークフローを全面的にサポートするため、アプリケーションを確実に実行し続けることができます。コンピュートインスタンス、ストレージインスタンス、さらには Google Cloud アベイラビリティゾーンの間で VM のライブマイグレーションを実行できます。



12

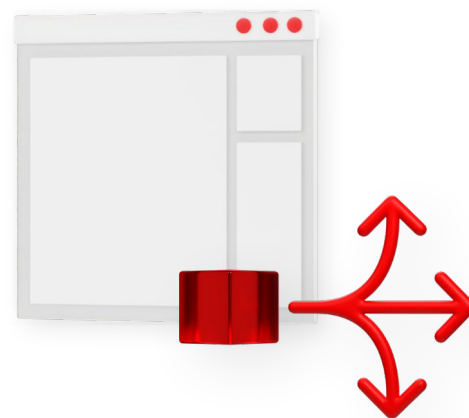
VM のバックアップとリストア

予期せぬイベントやシステム障害が発生した際に、VM を迅速にリストアし、ビジネス継続性を確保するには、信頼性の高いバックアップとリストア機能が不可欠です。OpenShift Virtualization には VM のスナップショット作成とリストアのツールが組み込まれていますが、Red Hat の広範な認定パートナーエコシステムが提供するエンタープライズグレードの障害復旧を活用することもできます。手動スクリプトや汎用的な自動化に頼る代わりに、[Veeam Kasten](#) や [Trilio](#) などのパートナーが提供する認定バックアップ・ソリューションをデプロイできます。これらのソリューションは Kubernetes および仮想化ワークロード向けに設計されており、データの整合性と迅速なリカバリーを実現します。

Red Hat OpenShift Operator Framework を使用すると、これらのサードパーティ製バックアップツールを Red Hat OpenShift コンソールから直接インストールして管理できます。この統合により、VM とコンテナの両方のバックアップを単一の統合インターフェースでオーケストレーションできます。Red Hat のエコシステムでは、バックアップとリストアだけでなく、ストレージおよびデータ管理の幅広いパートナーとつながることができ、特定のコンプライアンスや運用上のニーズに最適なツールを柔軟に選択できます。



13

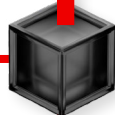


ワークロードの変化に応じて インフラストラクチャを拡張する

先進的なアプリケーションに関連する動的なワークロード、多様なテクノロジー、開発やデプロイの急速なペースにより、IT インフラストラクチャに対する要求も高度なものになっています。パフォーマンスとリソースの使用を最適化するために、仮想化プラットフォームはワークロードの変化に応じて動的かつ効率的にスケールアップおよびスケールダウンする必要があります。Ansible Automation Platform は、クラスタリソースのスケールリング、および負荷分散や構成などのプロセスのオーケストレーションによってこれを支援できます。

ワークロードポリシーに基づく自動スケールリングやマシンのヘルスチェックなど、Red Hat OpenShift の[マシン管理](#)機能により、インフラストラクチャをより柔軟かつ効率的に管理し、先進的なアプリケーションの要求を満たすことができます。Google Cloud 上の Red Hat OpenShift Dedicated では、Red Hat の SRE チームがコントロールプレーンの使用状況を 24 時間年中無休で監視し、サービスの停止を防ぐためにクラスタのスケールリングが必要な場合は通知します。

14



コラボレーティブなオープン ソースモデルをサポートする

オープンソースの開発モデルは、コラボレーション、イノベーション、コミュニティ主導の開発を促進し、新しい高度な仮想化技術を迅速に提供します。オープンソース・テクノロジーでは、安定したコミュニティによるイノベーション、幅広い互換性を実現するオープンスタンダード、柔軟な統合を可能にするオープンな API を利用でき、データセンターおよびクラウド・インフラストラクチャ全体で効率的な仮想化環境を構築するのに役立ちます。

OpenShift Virtualization は、コンテナネイティブ仮想化技術を使用して、継続的なイノベーションを実現します。この技術は、[KubeVirt](#) という Cloud Native Computing Foundation (CNCF) のプロジェクトで開発され、保守されています。Red Hat OpenShift Virtualization の基盤として、KubeVirt は開発者が共通の共有環境でコンテナと VM の両方に存在するアプリケーションをビルド、変更、デプロイできる統一された開発プラットフォームを提供します。

15



Red Hat のクラウドおよび仮想化エキスパートと連携する

仮想化環境の計画、デプロイ、保守を成功させるには、専門的なスキルと知識が必要です。仮想化に関する豊富な経験とプラットフォームに関する深い知識に裏打ちされた専門的なサポートおよびガイダンスにより、環境の最適な構成、潜在的な問題のプロアクティブな解決、パフォーマンス、セキュリティ、信頼性の最大化を支えます。

Google Cloud 上の Red Hat OpenShift Dedicated にはエキスパートによる 24 時間年中無休のサポートが含まれており、サポートコストと運用の最適化に役立ちます。Red Hat の SRE チームがクラスタのデプロイと管理を自動化するため、お客様のチームはアプリケーション開発と戦略的な取り組みに集中できます。マネージド形式で実施される脅威の監視と修復により、コストのかかるダウンタイムが削減され、信頼性とセキュリティが維持され

ます。Red Hat という単一の窓口を介してサポートを受けられるので、問題の解決にかかる時間を短縮できます。Kubernetes に関する経験が豊富なエキスパートにアクセスできるので、既存スタッフの再トレーニングや異動、あるいは、新しいメンバーの採用は必要ありません。

Google Cloud 上の Red Hat OpenShift Dedicated で OpenShift Virtualization を管理するのはお客様のチームですが、Red Hat のサポートスタッフが質問にお答えするとともに、プラットフォーム上の VM の移行、実行、管理に関する専門知識を提供することができます。

さらに、[Red Hat コンサルティング](#)による移行計画のサポートを利用すれば、デプロイの時間を短縮できます。

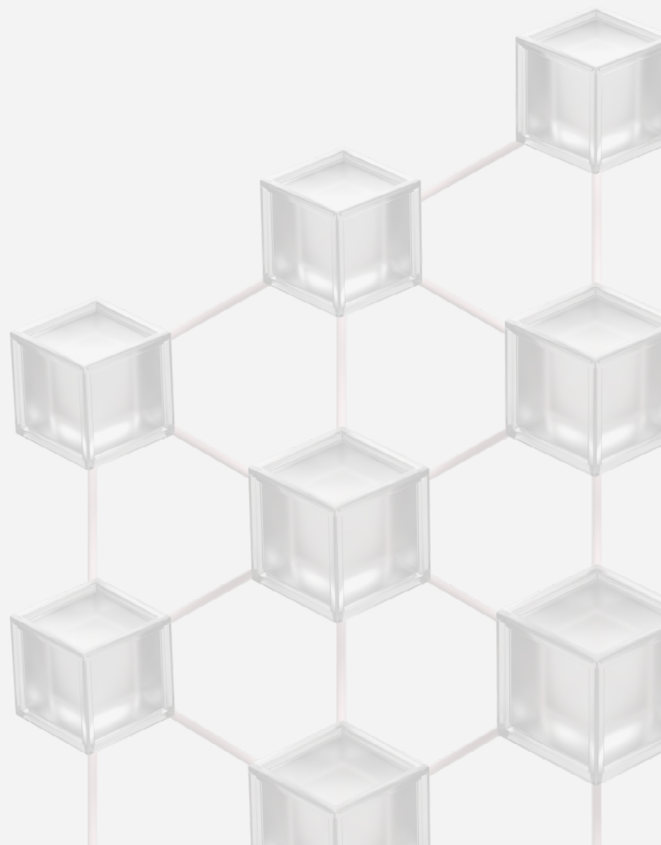
イノベーションのための一貫した基盤

OpenShift Virtualization は、VM とコンテナのためのスケラブルで柔軟な単一のプラットフォームを提供することで、運用のオーバーヘッドを削減し、モダナイゼーションを容易に進められるようにします。この統合は、VM とコンテナを効率的かつセキュリティ重視の方法で管理するための統一されたアプローチを提供します。

Google Cloud 上の Red Hat OpenShift を利用すれば、統一された基盤、統合された製品およびサービス、大規模なパートナーエコシステム、エキスパートによるサポートおよびサービスを活用して、少ない労力でアプリケーションを変革できます。

また、先進的なアプリケーション開発原則を VM に適用し、オンサイトのデータセンター、エッジ、クラウドの各環境で、すべてのアプリケーションとワークロードを一貫して実行することも可能です。開発者の生産性を高め、運用を単純化し、インフラストラクチャとアプリケーション提供を効率化して、お客様のビジネスをより良くサポートします。OpenShift Virtualization と Google Cloud 上の Red Hat OpenShift を使うことで、将来のモダナイゼーションと変化に備えながら、今日のビジネスニーズに応えることができます。

VM の移行を開始する



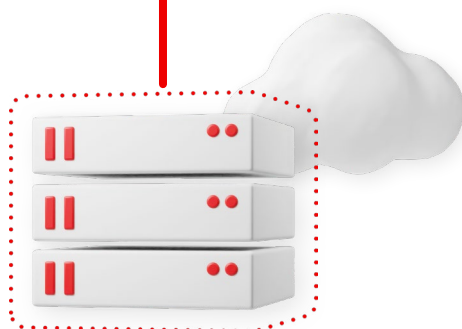
VM とコンテナのための単一のクラウド対応アプリケーション・プラットフォームで、IT 運用を統合し効率化しましょう。

OpenShift Virtualization と Google Cloud 上の Red Hat OpenShift は運用の複雑さを軽減し、仮想化およびコンテナ化されたアプリケーションとワークロードのすべてに先進的でクラウドネイティブな統合インフラストラクチャを提供します。既存の VM に先進的なアプリケーション開発原則を導入し、クラウドネイティブな未来に備えるプラットフォームおよびクラウドサービスで、モダナイゼーションへの道を計画しましょう。

OpenShift Virtualization の [詳細](#)

Red Hat OpenShift Dedicated の [詳細](#)

セルフマネージド型 Red Hat OpenShift の [詳細](#)



OpenShift Virtualization を無料で体験

Google Cloud 上の Red Hat OpenShift Virtualization でインフラストラクチャをモダナイズしましょう。信頼できるグローバル・プラットフォーム上で仮想マシンとコンテナを並行して管理する方法をご覧ください。

[Google Cloud 上の Red Hat OpenShift の詳細を見る](#)